

会 議 録

会 議 名	令和7年度第3回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和8年3月13日（金）	開 会	午後1時30分	
		閉 会	午後2時40分	
開 催 場 所	東松山市総合会館3階 302会議室			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 東松山市幼児教育研修会の報告 (2) 第2回幼保小三者連絡会の報告 (3) 令和7年度事業報告 (4) 令和8年度事業計画（案）及びテーマ（案） 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍 聴 者 数	2人	
非公開の理由 （非公開の場合）				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	出席	小佐野 真紀	出席
	竹内 千鶴子	出席	峯 岩男	出席
	西條 宏実	出席	二口 法子	欠席
	狐塚 汐里	欠席	内田 宏美	出席
事 務 局	教育委員会教育長 吉澤 勲		こども家庭部長 神庭 法子	
	こども家庭部次長 加藤 勝子		学校教育課 副主幹 成田 恭平	
	保育課 課長 阿部 康裕		保育課 副課長 福田 潤	

	顛	末
1 開 会	事務局	
2 あいさつ	東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲	
	座長については、第1回東松山市幼児教育振興懇談会において、 峯岩男氏を選任済 会議録署名人に巢立佳宏氏、内田宏美氏を指名	
3 議 題	座 長 議題（1）東松山市幼児教育研修会の報告について、 事務局から説明をお願いします。 事務局 （説明） 座 長 このことについて、アンケート結果がまとめてありますが、ご参加の皆様から何かご意見はありますか。佐藤康富先生は非常に丁寧で、現場に精通している先生ですので、現場寄りの丁寧な優しい語り口で講義をしてくださいました。アンケート結果は後でゆっくりとご覧いただき、今後の参考にさせていただくということをお願いしたいと思います。幼稚園、保育園、小学校に分かれて記載されていますので、後々気が付いた点がありましたら、事務局までお伝えください。 議題（1）に関しては以上でよろしいでしょうか。 全 員 （特になし） 座 長 続いて議題（2）第2回幼保小三者連絡会の報告について、事務局から説明をお願いします。 事務局 （説明） 座 長 参加された先生方から感想をお話しいただきたいと思います。 巢立氏 両日参加させていただきましたが、高坂ひまわり保育園では、公開保育の部分は参加できませんでしたが、研究協議の中で、競技的な部分を遊びの中に取り入れているのだなと感じました。保育園でも競技的な学びも必要な部分はありますし、こども自身が「学んでいる」よりは「体験している」部分が良く出ていると思いました。松山南幼稚園では、集団の力があるグループを参観しまし	

	<p>たが、ドッジボールの場面でこども達が連携して仲良くルールを守って取り組んでいた印象です。研究協議の中で、最近では文化の違いを考える必要があるという話がありました。新聞を購読する方が減ってきていて、大学生になっても新聞を読んだことがないという学生もいますので、社会の文化、環境の変化に応じて幼児教育の世界も変わっていくのかなと感じました。</p> <p>座長 文化の違いについて、皆様も肌で感じていると思います。現代では、若者はA I、電子機器を自分のものとして扱えるようになっていきます。我々の時代は、一字一句逃さずに新聞や教科書と向き合う対面的な環境で過ごしてきた状況でしたが、今はそれとかけ離れた状況で生活や教育が進んでいる感じがします。そのような違いも受け止めながらも、温故知新という言葉のとおり、今の新しいことを知るだけでなく、それ以前から色々な根底があつてこそ、現在の状況に至ってきたことを互いに理解し合い、文化の違いを認め合うことも必要ではないかと思います。</p> <p>小佐野氏 松山南幼稚園では、ドッジボールの取り組み始め、導入の仕方一つをとっても、幼稚園や保育園でそれぞれのやり方があって、違いを知るきっかけになったと思います。</p> <p>初めは紙に書いてルールの説明をする園もあれば、中当てごっこ形で、ボールに臭いがついていてと例え、当たったら臭いが付くから逃げろという体験から入る園もあります。この点が小学校への就学に当たり、一つの活動への導入方法の違いでもあり、こども達が戸惑う点になるかもしれないし、面白みを感じる点になるかもしれません。また、個々により紙に書いての説明が良い子もいれば、動きながらの方が分かりやすい子もいると研究協議でも意見があり、先生も色々なバージョンの導入方法を持つことも必要になってくるのかなと感じました。それは、幼稚園、保育園だけではなく、小学校の先生も授業の進め方の色々なバージョンを持つことで、現代</p>
--	---

	<p>のこども達に合うものを見つけやすくなるのかなと思います。それから、小学校の先生のお話で印象的だったのは、入学時に多くの知識や経験を持っている子と、それほど持っていない子がいますが、夏頃までには大体追いつくそうで、それよりもよく話を聞いて、新しいことを知ろうとする子の方が伸びていく印象があると伺いました。やはりそのような力を幼児期に育むことが、私たちにも必要と思いました。</p> <p>座長 今回は2月の活動ですので、そのクラスで一年近く過ごしてきた姿です。例えばドッジボールを採り上げてみたとき、突然ドッジボールになったのではなく、結果としてドッジボールという遊びに至っています。そのプロセスの中で様々な環境や人との出会いなどがあり、日頃やってきた遊びの最終的な結果としてドッジボールの活動に至ってきたと考えるべきだと思います。ですから、最終的な場面だけを見たのでは、保育の本質を見逃してしまう恐れがありますので、これからは研究協議の中でも、その日見た場面のみでなく、そこに至るプロセスまで全体的な意見を出し合って学び合う形にして、せっかくの機会の意味が薄れてしまわないよう進めていきたいと思います。</p> <p>竹内氏 松山南幼稚園では、ドッジボールを通じて、互いに応援し合うこども達の関係性や、勝ち負けがあるものの楽しさを幼稚園でありながら分かっている様子が印象的で、長いスパンで少しずつ取り組んできたものが今に至っていると感じました。園長先生からは、以前は勉強も取り入れていたが、現在は遊びの中での取組にシフトしていると伺いました。こども達の中での言葉のやり取りや、お互いに折合いをつけることがよく出来ていて、人間関係や人との関わり方が育っていると感じ、さすが年長組だなと思いました。</p> <p>座長 どうして遊びが大事かといいますと、単なる遊びではなく、遊び込む、一つのことに夢中になる、そして互いに夢中になったことや思いをこども同士で語り合ったり</p>
--	--

	<p>学び合ったりする中で、お互いに切磋琢磨して育ってきた部分を確認あうことが大切だからです。園長先生が勉強から遊びにシフトしたのは、遊びを重要視して、遊びの中で育つ部分を大事に進めていきたいと考えたからだと思います。西條先生はご都合が合わず欠席でしたが、校長先生の立場から、新1年生を迎えるに当たって、何かお気づきの点がありましたらお話しいただけますか。</p> <p>西條氏 今年度、何人か1年生で登校を渋る子がいました。何が直接の原因かはそれぞれだと思いますが、これといった原因が見受けられない子もいて、何となく教室に足が向かないけれど、教室に入ると友達や先生がいて、授業が始まるとそこに向かっていく姿を見てきています。ただ、どの子も1学期の頃より3学期、2年生に向かうところでは成長していると感じています。本校では今年度、ひさみ幼稚園、のもと保育園、あっぷる幼稚園の年長組と交流会を実施しました。ひさみ幼稚園とは1、2年生が、のもと保育園、あっぷる幼稚園とは4年生が交流しました。4年生は高学年に向けて次のリーダーとなる新たな気持ちで、1年生は普段は最下級生で可愛がられている立場ですが、年齢が下の子が来たことで、自分達が年上なんだ、何かしてあげたいという思いや姿が、たった1日1時間でしたが強く実感できました。このような取組を引き続き行っていただけると、年長組の就学に向けての準備にもなりますが、小学校側としても非常に良い時間になると思います。</p> <p>座長 各小学校の先生が、就学に当たって各幼稚園等に就学児の状況を聞き取りに来てくれますが、その情報はどのように活用されていますか。</p> <p>西條氏 本校ではまず全職員で共有し情報交換を行います。その後、1年生担任と教務主任、教頭でクラス編成を行う際にも参考としています。</p> <p>座長 学校全体で共有していただいているのですね。</p> <p>西條氏 そのとおりです。</p>
--	---

	<p>竹内氏 以前より随分と引継ぎの時間も長く、内容も詳しく行うようになりました。</p> <p>西條氏 様々なこどもがいるので、小学校としても十分な準備と心構えを持って、スムーズなスタートが切れるようにしています。</p> <p>座 長 そうすることによって、学校が楽しい、学校が好きだという思いに親子共々なっていたきたいと思しますので、幼稚園、保育園としてもこれからも懇切丁寧に対応させていただきます。</p> <p>内田氏 高坂ひまわり保育園に参加しましたが、ことわざ等に取り組んでいて、まつやま保育園と違いがあるところが多かったです。まつやま保育園は生活重視で教育的な部分に取り組む機会はあまり多くないので、違いに驚いた部分もありました。ただ、こどもが何にどう興味を示すかは分からないので、覚えるためのものではなく、こどもの知識を増やすための掲示やきっかけづくりをするのも大切と感じましたので、取り入れていけたら良いと思いました。研究協議の中では、幼稚園、保育園と小学校との連携が、野本小のように出来ているところとそうでない所があるようで、小学校も受入れが難しいと思いますが、年間のどこかで良いので、全ての園児に小学校を知る機会が持てたら良いという意見や、就学前2月の引継ぎ会のみでなく、入学後に幼稚園、保育園との違いで悩んでしまう子の対応についてお互いに話し合える機会が持てたら、引継ぎ、連携がより色濃く充実できるという意見がありました。この会の中でそのようなきっかけを作っていけると良いと思いました。</p> <p>座 長 長く幼児教育に携わっていますが、環境や価値観の変化を背景に、全てがスムーズに進行しているわけではありません。これからもそのような声を活かしながら進めていきたいと思しますのでよろしくお願いします。それでは、ひととおりご意見をいただきましたので、議題(2)に関しては以上でよろしいでしょうか。</p> <p>全 員 (特になし)</p>
--	--

	<p>座 長 続いて議題（３）令和７年度事業報告について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 こちらは事業報告で、皆様にもご参加いただいておりますので、このまま了承してよろしいでしょうか。</p> <p>全 員 （特になし）</p> <p>座 長 続いて議題（４）令和８年度事業計画（案）及びテーマ（案）について、事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 事業計画（案）を提示いただきました。第１回幼児教育振興懇談会の会場は確保されていますか。</p> <p>事務局 確保しております。</p> <p>座 長 第１回幼保小三者連絡会の会場校は松山第一小学校、野本小学校と決まっています、日程はこれから調整ですか。</p> <p>事務局 そのとおりです。</p> <p>座 長 幼児教育研修会は、昨年と同様に８月初旬で、小学校の先生にも参加しやすい日程で設定したいと思います。</p> <p>竹内氏 幼稚園は７月３０日、３１日と関東ブロックの研究大会が予定されています。</p> <p>西條氏 ８月１０日から学校閉庁に入るので、その前から休みに入る職員が多くなります。</p> <p>事務局 ８月３日から７日までの週で、講師の佐藤先生と調整いたします。</p> <p>座 長 各事業につきましては日程調整をお願いします。そして、大事なのはテーマ（案）ですが、全体テーマを「子どもが主体性を発揮できる保育・授業を考える～子どもが主体的に楽しめる活動と工夫～」と提示していただきました。幼稚園、保育園、小学校それぞれ、主体的に楽しめる活動と工夫が求められているわけですが、テーマ（案）については皆様いかがでしょうか。</p> <p>全 員 （異議なしの声）</p> <p>座 長 それではそのようにさせていただきます。</p> <p>第２回幼児教育振興懇談会は研修会終了後に開催、第２回幼保小三者連絡会は、会場園の幼稚園が空欄となっております。</p>
--	--

	<p>ますが、新明幼稚園又は高坂幼稚園を予定していますので、決まり次第事務局に連絡します。保育園はたかさか保育園でよろしいですか。</p> <p>事務局 そのとおりです。</p> <p>座長 第3回幼児教育振興懇談会は本日のような形での開催予定となります。来年度の流れとしてはよろしいでしょうか。</p> <p>全員 (異議なしの声)</p> <p>座長 それでは、新年度テーマ(案)について資料を用意していただきましたので、私から説明を加えさせていただきます。この3年間、架け橋プログラムとして、幼・保・小が連携し、スムーズな就学につながるよう取り組んできましたが、この考えが浸透するまでには、時間がかかると実感しています。新年度テーマ(案)は、幼稚園、保育園で遊びを重視してきた子ども達が、小学校就学に当たり抵抗なく学校に通えることを具体的に考えていく必要性があると考え、子どもが主体性を発揮できる保育・授業をもう一度考えてみようと思いました。「主体的・対話的で深い学び」は、0歳から18歳まで共通した大きなテーマになっているので、これを理解して進める必要があります。子ども達が遊びを通じて「主体的な学び」をしているときに見せる姿を、現場でよく理解していただき、保育活動を工夫してほしいと考えました。そして、「対話的な学び」では思考や知識が広がりますが、これは小学校的な知識が広がるという意味ではなく、「自分はこう思う」「こうしたい」という思いが遊びの中で自分たちから自然に出てくる姿を期待しながら、保育者がその思いを受け止め深い学びにつながっているような関わりが必要と考えるものです。「深い学び」については、理解や納得、さらなる意欲を生むということを含め、試行錯誤や本人なりの納得をしている姿が生まれてくるということを現場が理解した上で、子どもと取り組んでいただきたいと考えます。これらの取組により、幼児期の終わり頃には、より多くの子ども達の「10の姿」が見られるようになります。それを受けて、小学校でも授業を工夫してみたいと考えます。本日、話題にも出まし</p>
--	---

	<p>たが、なぜ「あそび」なのか？ということに対しては、就学前施設は小学校の予備校ではありません、とはっきり示している文献があります。こども達は遊びの中で多くのものを得ていることを、我々幼稚園、保育園関係者は改めて理解しておかなければならないと思います。そして幼児教育が変わっていく中で、小学校も並行して変わってほしいと考えられていて、国語は国語といった単一の單元ではなく、一つの大きな目標を立て、関連する様々な教科・活動を組み合わせた「合科的」な指導が挙げられています。特に、小学1年生には是非取り入れていただくことで、幼児期で遊びを重視していたこども達の戸惑いが最小限に抑えられ、学校が大好きなこども達が増えていくのではと期待されています。また、これまでどおり幼児教育と小学校教育の違いとつながりの理解を深めていただくことで、幼・保・小のより良い連携が図れると思います。この他、具体的な内容は、夏の研修会で佐藤先生から講義をいただきたいと考えています。以上ですが皆様から質問はありますか。</p> <p>全 員 (なしの声)</p> <p>座 長 最後に、議題(5) その他ですが、事務局から何かありますか。</p> <p>事務局 事務局からはありません。</p> <p>座 長 なければ、これで全ての議事を終了しましたので、座長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。</p>
4 閉 会	事務局
<p>上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。</p> <p>令和 8 年 3 月 3 0 日</p> <p>署名委員 <u>          巢立 佳宏          </u></p> <p>署名委員 <u>          内田 宏美          </u></p>	